

110706

校内研

7月 6日 校内研究会 (兼・練馬区ICT教育研修会)

高学年分科会授業提案

第6学年 算数科「割合の表し方を考えよう」

指導者 曾我 泉 主幹教諭

授業の流れ

- 1 前時の振り返り(比の値の練習問題・フラッシュ型教材)
- 2 本時の課題確認 「等しい比同士の間係を調べよう」
- 3 自力解決
- 4 発表・検討 (ノートに書いた考えを映す)
- 5 まとめ、適用問題 (適用問題の提示)



第5学年 国語科「きいて きいて きいてみよう」

指導者 馬場 美桃 教諭

授業の流れ

- 1 前時の感想を確認し、本時のめあてを確認する(感想の提示)
- 2 インタビューの例をCDで聞く
- 3 改善策をグループで話し合う
- 4 6年生へのインタビューで聞くことを考える
- 5 本時のまとめ



協議会

分科会提案 一人一役になるような3人組のグループ活動(5年)や、ペアでの学習(6年)を行うことで、活発な話し合いや、友達と自分の考えを比べる学習の充実を目指した。

自評

<6年1組 曾我 泉>

電子黒板だけではなく、実物投影機やデジタルカメラなどを日常的に活用している。本日の算数「比と比の値」では授業づくりの観点からは、ノート指導を重視した。見開きで分かりやすく、課題・めあてを色分けして書くノート指導の徹底で、他の人のノートを見ながらでも説明ができるようになった。ICT活用の観点からは、実物投影機を使用した説明で、授業のテンポアップを図った。

<5年2組 馬場美桃>

「きいて きいて きいてみよう」の単元では、6年生に移動教室についてインタビューをすることにした。「きく」ときに大切なことをつかませていくことをねらった。相手の意見をよく聞いて臨機応変に回答したり、メモから分かったことを整理して話したりする力を育てていく。そのための手立てとして、授業づくりの観点からは、グループ形態を3人組とし、一人一役とすることで全員が活発に活動できるよう意図した。ICT活用の観点からは、前時の課題の共通理解を図るためにSDカードに保存しておいた前時の学習感想を提示した。

協議

<5年 国語>

発表しやすい雰囲気良かった。3人組が有効であった。ノート指導が徹底されていて、児童の頭の中も整理されていた。児童の発言に根拠を求めていたのが良かった。音声でインタビューのモデルを聞いた後、教師がメモについて発問し話し合っていた。音声からメモのことは分からない。ねらいとモデルと発問について考えたい。

<6年 算数>

ペア学習が1時間の中で繰り返し取り入れられていて、学習内容を深めていた。ノート指導がしっかりできていて、児童の中で定着していた。自分で課題を見つけて解決していく姿が素晴らしい。ノートを映して発表する活用が有効だった。考えを書いた児童から自分でデジカメに撮っていく方法は時間短縮にもなり良かった。一瞬でも児童をボーッとさせない授業展開に感動した。

指導・助言 玉川大学教職大学院 教授 堀田 龍也先生

協議会の前に確認

1. 今年度より学習指導要領が完全実施となった。
2. 基礎・基本を効率よく習得し、習得したことをどう活用していくかがポイントとなる。
3. 教科書が厚くなった。
4. 授業展開の見直しが必要。
5. 時数は限られているので何かを妥協する。

授業をどう効率よく教えていくか、学んだことを活用していくかがより大切になる。だからこそ全国的にICTの普及が進んでいる。ICTは情報の共有がしやすいからである。

5年 国語 馬場実践についてのご指導

マスクングより“みのもんだ式”を採用して、隠しながら見せて児童を引き付けていた。実物投影機の向き、置く場所、教師の立ち位置など基本的なことができている。インタビューの際に気を付けることが活発に発表されていた。まとめでは、自分たちの考えたことと併せて、教科書の「たいせつ」に書かれていることを活用し、一般化を図るとよいだろう。「良いたずね方」などを見つけるには、教科書に載っているCDの文章を活用すると分析しやすい。

6年 算数 曾我実践についてのご指導

自立解決の後半の場面にICTを活用していた。児童も操作に慣れていて、ノートに書いた児童と違う児童が発表する学習活動を取り入れていた。図や式などで分かったことを言葉でまとめて考え発表するという言語活動であり、習得した内容を確認し適用させる優れた方法だ。日頃から鍛えておかないとできないことである。

当日の授業についてのご指導

(6-2 社会 大島実践)

鎌倉時代に関するフラッシュ型教材を使った復習では、児童がよく答えていた。映像板書計画は、映像で見せるもの(大きく見せたい資料・残らないもの)と板書するもの(児童の発表内容・残したいもの)を意識して構成を考えることが大切である。



(5-1 道徳 伊藤実践)

絵本の挿絵を映して情報の共有を図ることで、主人公と自分を同化させる働きがあった。



(3-1 理科 鈴木実践)

実際に観察したことを確認していた。ノートの書き方が上手。日常の指導が大切である。



(1-2 算数 嶋原実践)

児童が自分の考えを電子黒板を使って説明していた。ブロック操作を大きく映し、情報の共有として使用していた。

(1 - 1 生活 吉川実践)

アサガオを大きく見せて気付きを得る使い方をして
いた。先生が使えるICTの道具は児童も使えるとい
う考えで、今回のように児童にもどんどん使用させ
たほうが良い。



(4年 算数 磯部・花井・関口実践)

児童が自分の考えを説明する(思考の視覚化)のためにICTを使っている
実物投影機で映したものが児童に見えるのか、教師は常に確認したほうが
良い。

